

講演会のお知らせ

立位(マルチポジション)CT導入記念講演会

2026年 **8月8日(土)**

17:00～18:30(受付 16:30～17:00)

済生会熊本病院 外来がん治療センター4階
コンベンションホール

このたび当院では、地域医療機関の方を対象にした講演会を開催いたします。
地域医療の質向上と医療機関との連携強化を目的としておりますので、ご多用のところ恐れ入りますが、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

01

基調講演

立位CTが拓く次世代画像診断 — 臨床における立位CTの可能性

座長：熊本大学病院 病院長 平井俊範 先生
講師：慶應義塾大学医学部 放射線科学教室 教授 陣崎雅弘 先生

02

講演

重力を見える化する 近未来CTの活用について

講師：済生会熊本病院 予防医療センター センター長 満崎克彦

講演会終了後、予防医療センターのレストランにて情報交換会も予定しております。

■お申し込み方法

右記二次元コードより
お申し込みください。



■お問い合わせ先

済生会熊本病院 予防医療センター(田川・深堀) / 地域医療連携室(緒方・古谷)
TEL:096-351-1011

患者さんの ご紹介方法

01

FAXを送る

紹介状を外来紹介センターまでFAXください。
■紹介状は貴院の書式で問題ございません。
■予約日に関しては患者さんとの調整も可能です。
ご希望の場合はその旨ご記載ください。

02

当院から予約日をお知らせ

当院より予約票送付と、確認のお電話をいたします。

外来紹介センター

TEL 096-351-8321
FAX 096-351-8697

平日 8:30～17:00 / 土曜 9:00～12:00

※日曜、祝祭日、年末年始を除く
※土曜日は検査のみのご予約はできません

検査のみのご依頼にも対応します

地域の先生方からの「立位CT検査のみ」のご依頼を9月14日より受付いたします。検査後は、専門医が読影を行い、画像および読影レポートをお返しいたします。患者さんには、検査後に紹介元の先生のもとで結果をご説明いただけます。
立位CTの適応に迷われる場合も、まずはお気軽にご相談ください。患者さんの症状や検査目的を確認し、適切な撮影体位をご提案します。

予約受付開始

2026年
9月14日(月)より

検査開始

2026年
10月1日(木)より

紹介患者FAX依頼書(兼診療情報提供書)は当院ホームページからダウンロード・直接入力いただけます。



[サイクル]

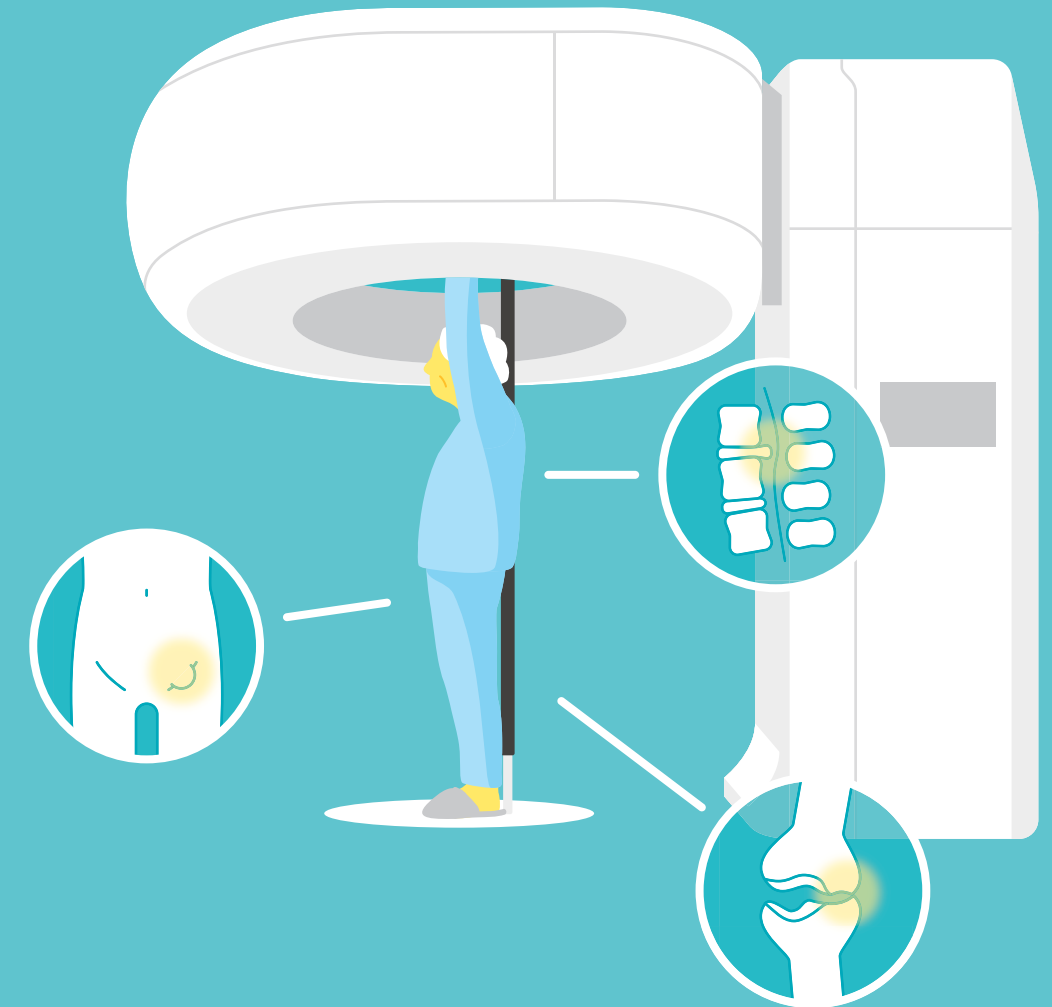
vol. 117

2026.July

済生会熊本病院 連携広報誌

s a i k u r u

明日へつながる、より確かな医療連携をめざして。



臥位では見えづらい 症状の原因を可視化する

西日本初導入 マルチポジションCT





臥位では見えづらい 症状の原因を 可視化する

西日本初導入 マルチポジションCT

2026年
9月14日(月)より
予約受付開始

CT撮影を行った際、こんな経験をしたことはありませんか？

- ✓ 腰痛があるのに画像所見が乏しい
- ✓ 立位や歩行時だけ症状が出る
- ✓ 膝の痛みと画像所見が一致しない
- ✓ 鼠径ヘルニアが疑われるが診断が難しい
- ✓ 骨盤臓器脱や排尿トラブルがある

私たちの日常生活は立位や座位で営まれています。しかし従来のCT検査は仰向け(臥位)で撮影されるため、重力や荷重によって生じる変化を十分に評価できない場合があります。立位CTは、重力の影響を受けた人体の状態を撮影できる新たな画像診断装置であり、従来の臥位撮影では得られなかった知見が期待されています。

器質的疾患に加え、 機能的疾患の評価へ

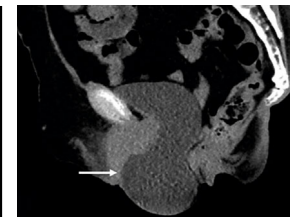
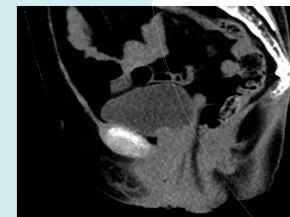
「立つと出る症状」を
可視化する

立位CTでは重力や荷重がかかった状態での撮影が可能のため、重力負荷によって初めて現れる以下のような異常を評価できます。

- 脊柱管狭窄症
- 椎間板ヘルニア
- 変形性膝関節症
- 鼠径ヘルニア
- 骨盤底障害
(子宮脱などの臓器下垂など)
- 呼吸器疾患
(重力下での形状変化)
- サルコペニア・フレイル
(筋肉量評価)
など

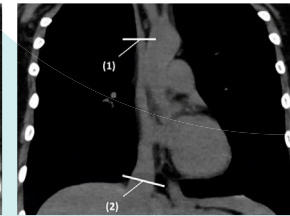
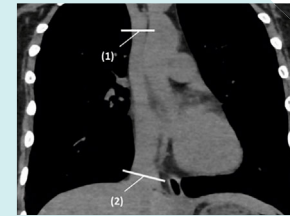
仰臥位

立位



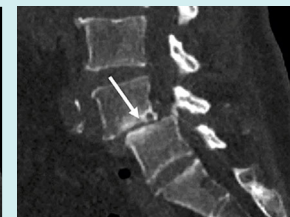
骨盤臓器脱

仰臥位CTでは膀胱脱は認められなかったが、立位CTでは膀胱脱が確認される



体位による静脈径の変化

立位CTでは、上大静脈の太さ(断面積)や血管のつぶれ具合(扁平率)を評価できる



脊椎すべり症

立位CTでは、腰椎L4のすべりが明瞭に描出されている



鼠径ヘルニア

立位CTでは、より明瞭な左鼠径ヘルニアが描出された

出典: Jinzaki M, Yamada Y, Nagura T, et al. Development of Upright Computed Tomography With Area Detector for Whole-Body Scans: Phantom Study, Volunteer Study and First Clinical Experience. Investigative Radiology. 2020;55(2):73-83. CC BY-NC-ND 4.0.

立位CTのポイント

01

原因が特定できない 症状の診断精度向上

立つと痛みが出現したり増強したりするなどの症状があるにもかかわらず、従来の仰臥位(寝た状態)での検査では明らかな異常所見が認められない患者さんに対して、立位でCT撮影を行うことで、新たな診断の手がかりを得られる可能性があります。また、本装置は疾患の診断だけでなく、日常生活の大半を占める「立った状態」において筋肉量や内臓脂肪量などを評価できることから、フレイル予防や健康寿命延伸への活用も期待されています。当院では、健診から保険診療まで幅広いニーズに対応する新しい画像診断技術として、本装置を積極的に運用してまいります。

02

多様な撮影体位による 新たな検査ニーズへの対応

立位だけでなく、座位・半座位など多様な撮影体位に対応しており、さまざまな検査ニーズへの対応が可能です。また、立位撮影では寝台への乗り降りが不要なため患者さんの負担軽減や撮影時間の短縮につながるほか、従来と比較して低線量でのスクリーニングも実現します。



立位



座位



半座位



地域の先生方には、平素より当院の診療に多大なるご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。このたび当院では、西日本で初となる立位CTを導入いたしました。日常診療において、「立っていると痛みや症状が現れるものの、従来の臥位CTでは明らかな異常が認められない」などの診断に苦慮されるケースもあるかと存じます。立位CTは、重力や荷重がかかった状態で撮影できることが特長です。立位で生じる身体の変化を可視化し、症状の原因を探る新たな手がかりとなることが期待されます。健診から保険診療まで幅広く対応しておりますので、原因の特定が難しい症状でお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひお気軽にご相談・ご紹介ください。

予防医療センター センター長

満崎 克彦 みつざき かつひこ



立位CTは、地域の先生方より正確な診断をサポートする強力なツールとなります。本装置の特長は、立位だけでなく座位や半座位など、患者さんの症状が出やすい姿勢に合わせた多様な体位での撮影が可能なお点です。また、寝台への乗り降りが不要なため、痛みを抱えた患者さんの身体的負担を大幅に軽減でき、撮影時間の短縮にもつながります。さらに、従来と比較して低線量での撮影を実現しており、安全性の高い検査が可能です。先生方の臨床的な疑問に応え、最適な治療方針の決定に寄与できる高品質な画像を提供してまいりますので、検査のご依頼をお待ちしております。

放射線検査室 副技師長

坂本 崇 さかもと たかし